

群 教 七	G09 - 03
	平 24. 246集

中学校英語科において 情報を豊かに発信できる指導の工夫

— 英語を「文」単位で習得し、
それを基に文章を構成する活動を通して —

長期研修員 五十嵐 豊

《研究の概要》

本研究は、中学校の英語学習において、習得した英文を使って、情報を量的にも質的にも豊かな内容で、相手に伝えることを目指すものである。具体的には、生徒はまず英語を「文」単位で習得する。次に習得した「文」を活用して文章を構成する。最後に学び合いを通して文章をより良いものに再構成する。以上の過程を通して生徒が情報を豊かに発信できるようになるための指導を工夫した。

キーワード 【英語—中 文の習得 発信 学び合い】

I 主題設定の理由

平成24年度より実施の中学校学習指導要領解説外国語編では、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等を、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信できるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実することが基本方針となっている。平成24年度学校教育の指針（群馬県教育委員会）にも、外国語の指導の重点として、生徒が自らの考えや気持ちを伝え合う活動を設定し言語活動を充実させることとあり、発信力の育成が求められている。

発信の一つの手段である「書くこと」について、国立教育政策研究所による「特定の課題に関する（英語：「書くこと」）調査結果」（平成24年1月）を見ると、4文程度の英作文をさせたとき、69%の生徒が課題を達成できている一方で、無解答の生徒が20%いる。また、同研究所による「特定の課題に関する（英語：「話すこと」）調査結果」（平成19年4月）によると、あるテーマについて、限られた時間内でまとめて話す力は達成率が約30%で、話すことにも課題があることが分かる。群馬県教育委員会による「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」（平成23年）の結果によると、「書くこと」について20語程度の英作文をさせたとき、60%以上の生徒が10語以下しか書けず、無解答も18%いた。また「話すこと」の調査では、発信する力の達成度は46%と低調であった。以上のことから、伝えたい情報を十分に発信できていないことが分かる。

「書くこと」「話すこと」が苦手な主な原因として、①発信する材料として英語を「文」単位で習得していない、②文章を構成する際に、既習の「文」をうまく活用できない、③文章構成力が不十分である、の三つが考えられる。そこで、本研究ではまず、毎時間の授業で様々な表現を「文」単位で習得させるために、繰り返し「文」を見たり音読したりする（センテンス・カードとサイトトランスレーション・シートを活用）。次に、十分な情報量をもつ文章を作るために、習得した「文」を組み合わせる（センテンス・カードと文章作成シートを活用）。更に、作った文章をより良いものにするために、学び合いを通して文章を再構成する（文章構造チェックシートを活用）。以上の活動を通して、生徒は情報を量的にも質的にも豊かな内容で発信できると考え、本主題を設定した。最終的には、この活動を各学年・各学期ごとに1回ずつ3年間で合計9回の「情報を豊かに発信するための活動例」としてまとめ、提案したい。

II 研究のねらい

中学校英語の学習指導において、情報を豊かに発信できる生徒の育成を目指し、英語を「文」単位で習得し、習得した「文」を活用して十分な情報量をもつ文章を構成し、更に学び合いを通して作った文章をより良いものに再構成し、情報を豊かに発信する指導の有効性を、実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 発信に必要な表現を習得する段階において、センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを用いて、「文」を何度も繰り返し見て音読することで、発信する材料として英語を「文」単位で習得できるであろう。
- 2 量的に豊かな文章を書く段階において、自分が選んだテーマや与えられた場面に応じてセンテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを用いて習得した「文」を自由に組み合わせて文章を構成する活動を行うことで、十分な情報量をもつ文章を作ることができるであろう。
- 3 質的に豊かな文章を書く段階において、文章としての一貫性に視点を当てて文章を自己チェックし、グループ内でチェックした文章を回覧し、他の生徒の文章の良さを参考に自分の文章をより良いものに再構成することで、情報を質的に豊かにし発信することができるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 「情報を豊かに発信できる」とは

本研究では、「情報を豊かに発信できる」ことを、自分が選んだテーマや与えられた場面に沿って情報を受け手に伝えるとき、量的にも質的にも豊かな内容で発信できることとする。豊かに発信できる力を育成するために、「はばたく群馬の指導プラン」（平成24年3月）で取り上げられている外国語の課題に視点を当て、文章の量（語数）と質（内容）の両面で中学校英語各学年の目指す姿を設定した。量的に豊かな文章とは、1年では40語程度、2年では50語程度、3年では70語程度でまとめられたものとする。質的に豊かな文章とは、1年ではandやbutなどの接続詞を使ったもの、2年では事実や様子について書いた後、自分の気持ちや考えを1～2文加えたもの、3年では順序を表す言葉などを使用し整理しながら内容をつなげたものとする。更に、3年間を通して代名詞や副詞の使用や動詞の適切な活用が含まれたものとする。なお、表1は、目指す姿を実現するための具体的な指導として、中学校学習指導要領外国語における指導上の配慮事項を基に、学習段階を考慮した題材を各学年・各学期ごとに配置し、「情報を豊かに発信するための活動例」としてまとめたものである。

表1 情報を豊かに発信するための活動例

		1学期	2学期	3学期
1	目指す姿	1年の最後には→andやbutなどの接続詞を使った文を交えて40語程度で文章をまとめられる。		
		30語程度で文章をまとめられる	30語程度で文章をまとめられる	40語程度で文章をまとめられる
年	題材	STEP1「私はこんな人です」 自己紹介文を書く	STEP2「My Favorite」 自分の好きな人物の紹介文を書く	STEP3「一年生の思い出」 心に残った出来事を書く
	目指す姿	2年の最後には→事実や様子について書いた後、気持ちや考えを付け加え50語程度で文章をまとめられる。		
2		40語程度で文章をまとめられる	40語程度で文章をまとめられる	50語程度で文章をまとめられる
	題材	STEP4「ブックトーク or ムービートーク」 お気に入りの本や映画を紹介する文章を書く	STEP5「仕事」 職場体験を踏まえて将来就きたい職業について書く	STEP6「街ガイド FOR 遊BOY&食べたGIRL」 自分の街の「グルメと遊びの情報誌」を作る
3	目指す姿	3年の最後には→文章を整理して内容をつなげ70語程度で文章をまとめられる。		
		50語程度で文章をまとめられる	60語程度で文章をまとめられる	70語程度で文章をまとめられる
年	題材	STEP7「あこがれのあの人に！」 ファンレターを書く	STEP8「DVD、映画館？」 トピックに応じて、主張文を書く	STEP9「20歳の自分へ」 未来の自分へ手紙を書く

2 「文」の習得について（センテンス・カードとサイトトランスレーション・シートを用いた活動）

本研究では、まず発信する材料として様々な基本文を「文」単位で習得させることとする。その理由は二つある。一つは、会話では相手に伝える情報は単語や語句でも成立するが、まとまりのある文章を書いたり口頭で発表したりする際には、「文」を組み合わせた文章としての発信を必要とするからである。もう一つは、言語材料を語・句のような小規模の単位で習得すると、さらにそれらを組み合わせる「文」を作る段階が必要となり、語順の正しさなどが求められるからである。以上のことから、「文」を構成する際、語・句のような小規模の単位ではなく「文」単位で習得することにより、習得した「文」を活用することが効率的であると考えた。具体的には、センテンス・カード「FCマナブくん」（図1）及びサイトトランスレーション・シート「マナブくん」（図2）を使って、生徒は発信の材料として「文」を習得する。なお、本活動では、「文」について十分に慣れ親しみ、英文の音読やその日本語訳が正確に行えることを習得と考える。



図1 センテンス・カード「FCマナブくん」

○ センテンス・カード「FCマナブくん」について

センテンス・カードとはカードの表に英文、裏に日本語訳を記したもので、一つの活動につき30文（枚）用意する。生徒は、授業の中で、さらには家庭においても、このカードを用いて英語を「文」単位で何度も繰り返し見て、音読したり日本語訳を声に出したりする。

○ サイトトランスレーション・シート「マナブくん」について

サイトトランスレーション・シートとは、センテンス・カードの内容、つまり英文とその日本語訳30文を1枚のワークシートにまとめたもので、左半分に英文を、右半分に日本語訳を載せてある。生徒は授業の中でこのシートを半分に折り、ペア活動でお互いの音読や日本語訳をチェックする。



図2 サイトトランスレーション・シート「マナブくん」

3 文章を量的に豊かなものにするについて（センテンス・カードと文章作成シートを用いた活動）

発信する材料として英語を「文」単位で習得したら、次に習得した「文」を活用して、量的に豊かな文章にしたい。具体的には、自分で選んだテーマや与えられた場面に応じて、まずバラバラにしたセンテンス・カードを目の前に置き、できるだけ多くのカードを自由に組み合わせ文章を構成する。その後、できあがった文章を整理しながら、後述する文章作成シート「カケルくん」に記入する。センテンス・カードと文章作成シートを使うことで、自分の伝えたいことを量的に豊かな文章にすることができると考える。

○ 文章作成シート「カケルくん」について

文章作成シート「カケルくん」とは、量的に豊かな文章を作成するためのワークシートである。ワークシートには、生徒がセンテンス・カードを組み合わせ文章を作る際の手順と留意点が載せてある。最終的に、生徒はこのワークシートに、作成手順に従い作った文章を記入する。

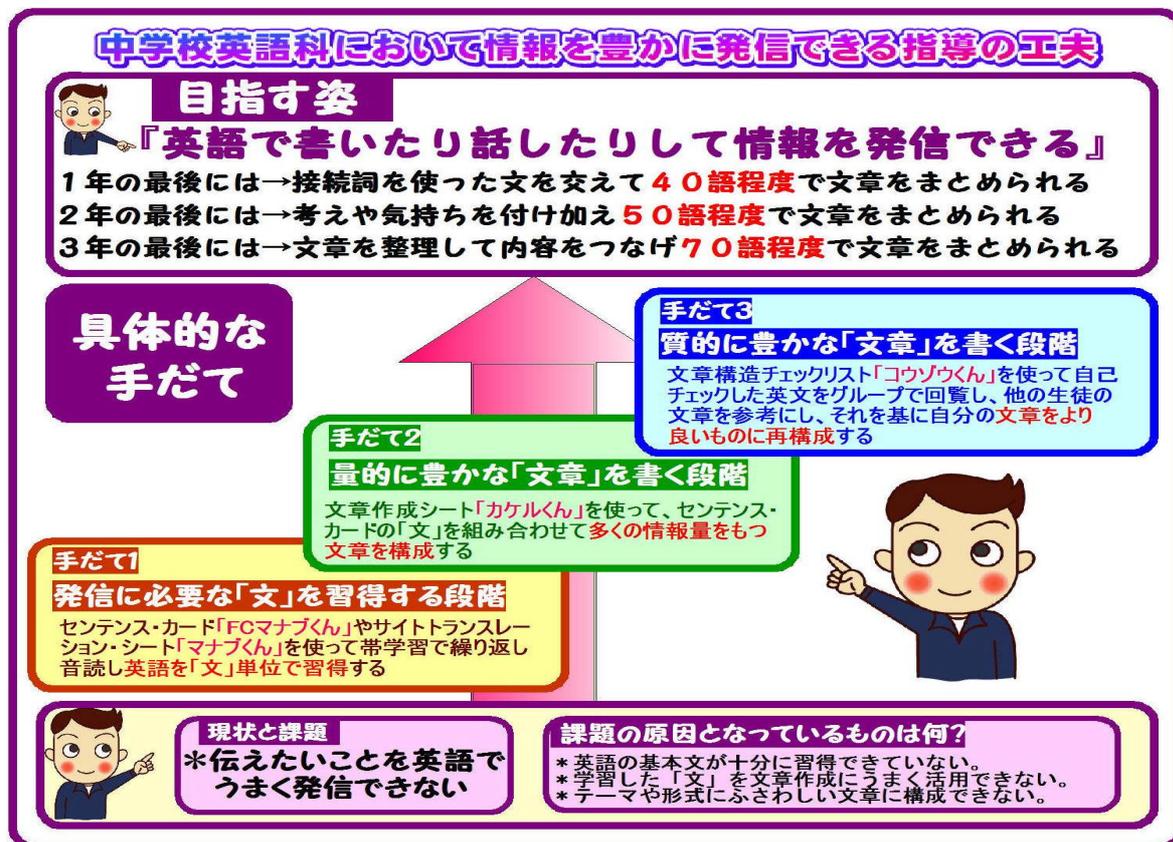
4 文章を質的に豊かなものにするについて（文章構造チェックシートを用いた活動）

伝えたい情報が量的に豊かになったら、最後は質的に豊かな文章にしたい。具体的には、「はばたく群馬の指導プラン」で課題となっている「文章としての一貫性」に着目して、まず、後述する文章構造チェックリスト「コウゾウくん」を使って作った文章を自己チェックする。その後、4人のグループ内でチェックした文章を回覧し、他の生徒の良さに気づき、その良さを参考にして文章を再構成する。学び合いにより、自分の文章を質的に豊かにすることができると考える。

○ 文章構造チェックシート「コウゾウくん」について

文章構造チェックシート「コウゾウくん」とは、文章を質的に豊かなものに再構成するためのワークシートであり、「文章としての一貫性をもたせる表現を使用できているか」を自己チェックするためのものである。また、他の生徒の参考となる文を書き取ったり、最後に再構成した文章を記入するためのものである。

4 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 研究授業実践の概要

対象	中学校第2学年 2クラス 68名
実践期間	平成24年10月15日(月)～10月26日(金) 3時間 ※センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを使用した「文」習得のための活動を上記実践期間の2週間前から協力校に依頼した。
題材名	情報を豊かに発信するための活動例：STEP5「職場体験を踏まえて将来就きたい仕事について書く」
単元の目標	将来就きたい仕事について、職場体験を踏まえた上で自分の考えや気持ちを1～2文加えて、40語程度の英語で書くことができる。

2 検証のための生徒群

A群(16名)	<ul style="list-style-type: none"> ・5～6文程度の文章を構成できる。 ・関連した内容の文をおおむね適切な順序で配置し、文章をまとめることができる。 ・複雑な文型を使ったり、接続詞や代名詞を適切に使うことができない。 ・主語の人称・時制・語形変化に気を付けて文を書くことが十分にできない。
B群(25名)	<ul style="list-style-type: none"> ・語順に注意しながら文を作ることができる。 ・3文程度の文章を構成できる。 ・関連した内容の文を適切な順序で配置できない。 ・接続詞や代名詞を用いて文と文とのつながりを表現できない。
C群(27名)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語レベルの習得はできている。 ・伝えたいことを発信する際、単語や語句を正しく組み合わせ、文を構成できない。

3 検証計画

研究仮説	検証の観点	検証の方法
<p>中学校における英語の学習指導において、英語を「文」単位で習得し、習得した「文」を活用して十分な情報量をもつ文章を構成し、さらに学び合い活動を通して作った文章をより良いものに再構成することによって、情報を豊かに発信できるであろう。</p>	<p>中学校における英語の学習指導において、情報を豊かに発信できる生徒の育成を目指し、英語を「文」単位で習得し、習得した「文」を活用して十分な情報量をもつ文章を構成し、さらに学び合い活動を通して作った文章をより良いものに再構成し、情報を豊かに発信する指導の有効性を以下の観点から検証する。</p> <p>○観点1〔英語表現を「文」のまま習得〕 発信に必要な表現を習得する段階において、センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを用いて、「文」を何度も繰り返し見て音読する活動を行うことは、発信する材料として英語を「文」単位で習得することにおいて有効であったか。</p> <p>○観点2〔多くの情報量をもつ量的に豊かな文章の構成〕 量的に豊かな文章を書く段階において、自分が選んだテーマや与えられた場面に応じてセンテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを用いて習得した「文」を自由に組み合わせて文章を構成する活動を行うことは、十分な情報量をもつ文章を作ることにおいて有効であったか。</p> <p>○観点3〔学び合い活動を通して質的に豊かな文章の構成〕 質的に豊かな文章を書く段階において、文章としての一貫性に視点を当てて文章を自己チェックし、グループ内でチェックした文章を回覧し、他の生徒の文章の良さを参考に自分の文章をより良いものに再構成する活動を行うことは、情報を質的に豊かな文章にして発信することにおいて有効であったか。</p>	<p>・振り返りカードの記録分析 ・学習の様子 ・アンケート</p> <p>・学習の様子 ・文章作成シート「カケルくん」の内容分析 ・アンケート</p> <p>・学習の様子 ・文章構造チェックシート「コウゾウくん」の内容分析 ・振り返りカードの記録分析 ・アンケート</p>

4 評価規準 観点については、以降（ ）で略記する

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度（関）	外国語表現の能力（表）	外国語理解の能力（能）	言語や文化についての知識・理解（知）
評価規準	<p>①既習の英語表現を使って自分の考えを書いたり話したりする活動に、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>②グループ活動で学んだことを、自分の発信に活かそうとしている。</p>	<p>できるだけ多くの英文を使って将来の仕事について書くことができる。</p>	<p>グループ活動において、他の生徒の作った英語の文章の内容を理解できる。</p>	<p>①センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートによる音読練習で、英文を「文」のまま理解できる。</p> <p>②発信に必要な「文」の発音・構造・日本語の意味を理解できる。</p>

5 指導計画（全3時間 及び事前指導として2週間（8時間）を予定する）

時	学習活動 □学習のねらい○学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価の観点）
事前指導	<p>1 週目（各時間の最初の10分間を使って行う） □STEP5で発信する活動に必要な英語の表現を「文」単位で習得する。 ○センテンス・カード「FCマナブくん」を使って、音読や口頭での英文和訳を繰り返す行う。</p>	<p>・多様な英語の表現を発信するための材料として使用できるように、カードの英語の表現に万遍なく触れさせる。</p>	<p>○センテンス・カードの英文を正しく音読したり、口頭で英文和訳したりする。（知①②）</p>
	<p>2 週目（各時間の最初の10分間を使って行う） □STEP5で発信する活動に必要な英語の表現を「文」単位で習得する。 ○センテンス・カード「FCマナブくん」を使って、音読や口頭での英文和訳を繰り返す行う。 ○サイトトランスレーション・シート「マナブくん」を使って、音読や口頭での英文和訳を繰り返す行う。</p>	<p>・多様な英語の表現を発信するための材料として使用できるように、カードやシートの英語の表現に万遍なく触れさせる。</p>	<p>○センテンス・カードの英文を正しく音読したり、口頭で英文和訳したりする。（知①②） ○サイトトランスレーション・シートの英文を正しく音読したり口頭で英文和訳したりする。（知①②）</p>
見通し1：センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを用いて、「文」を何度も繰り返し見て音読することで、発信する材料として英語を「文」単位で習得することができたか			
1	<p>□STEP5で発信する活動に必要な英語の表現を「文」単位で習得できているか確認する。 ○センテンス・カード「FCマナブくん」やサイトトランスレーション・シート「マナブくん」を使って、音読や口頭での英文和訳を行う。 □英文を書くときのルールをチェックする。 ○ルールを復習するためのワークシートを使って、読み手のことを考えた読みやすい記述方法を復習する。</p>	<p>・多様な英語の表現を発信するための材料として使用できるように、カードやシートの英語の表現に万遍なく触れさせる。</p> <p>・ワークシートでの活動を通して、これまでに学習した、英文を書く際の注意点を振り返らせる。</p>	<p>○センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートの英文を正しく音読したり、口頭で英文和訳したりする。（知①②） ○英文の書き方について正しく理解する。（知②）</p>

2	<p>□STEP5で発信する活動に必要な英語の表現を「文」単位で習得できているか確認する</p> <p>○センテンス・カード「FCマナブくん」やサイトトランスレーション・シート「マナブくん」を使って、音読や口頭での英文和訳を行う。</p> <p>□テーマに応じて、量的に豊かな文章を作る活動を行う。</p> <p>○文章作成シート「カケルくん」を使って「情報を豊かに発信するための活動例」のSTEP5の課題「将来就きたい仕事について書く」に取り組む。</p> <p>【活動の手順】</p> <p>①文章作成に活用できる動詞や助動詞の意味を確認する。</p> <p>②テーマに沿った英文をできるだけたくさん書く。 (「文」の書き出しが早く終わった生徒への指示として)</p> <p>③書き出した「文」の内容や前後関係等の関連を踏まえ、「文」の順序を簡単に整理し、まとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な英語の表現を発信するための材料として使用できるように、カードやシートの英語の表現に万遍なく触れさせる。 ・未習の英語の表現の使用はできるだけ避け、センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートで事前に学習した英語の表現を積極的に使わせる。 ・カケルくんの作成手順に従って文を組み合わせさせる。 ・未習語（職業名）については、あらかじめ用語集を用意し、希望する生徒に配付する。 ・必要に応じて事前に学んだ「文」をセンテンス・カードを見て確認させたり、カードを組み合わせる文章の全体像を具体的にイメージさせたりする。 	<p>○センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートの英文を正しく音読したり、口頭で英文和訳したりする。(知①②)</p> <p>○学習した英語表現を使って、より多くの情報を発信する。(関①、表)</p>
<p>見通し2：センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを用いて、習得した「文」を自由に組み合わせて文章を構成する活動を行うことで、十分な情報量をもつ文章を作ることができたか</p>			
3	<p>□STEP5で発信する活動に必要な英語の表現を「文」単位で習得できているか確認する。</p> <p>○サイトトランスレーション・シート「マナブくん」を使って、音読や口頭での英文和訳を行う。</p> <p>□文章をテーマや形式に沿って質的に豊かな文章に再構成する活動を行う。</p> <p>○文章構造チェックリスト「コウゾウくん」を使って、文章を更に質的に豊かなものにする活動を行う。(4人でのグループワーク)</p> <p>【活動の手順】</p> <p>①文章としての一貫性に視点を当てたチェックリストを使って気持ちや考えを表現している文を自分の文章から探しマーカーで線を引く。</p> <p>②マーカーで線を引いた文をグループ内で回覧し、他の生徒の文で参考となるものを見つける。</p> <p>③他の生徒の文章を参考に自分の文章に加える文を2～3文ワークシートに書き出す。</p> <p>④グループのメンバー同士の交流で得た他の人の良い部分を参考に、ワークシート「カケルくん」で作った英文を再構成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な英語の表現を発信するための材料として使用できるように、シートの英語の表現に万遍なく触れさせる。 ・チェックリストを使って、文章としての一貫性に視点を当てて文章を自己チェックし、チェックした文章を回覧する。そして、他の生徒の文章を参考に自分の文章をより良いものに再構成させる。 ・気持ちや考えを1～2文付け加えた文章になるように、再構成させる。 ・文章再構成の際、チェックリスト上の項目のいくつかが含まれればよいことを確認する。 	<p>○サイトトランスレーション・シートの英文を正しく音読したり、口頭で英文和訳したりする。(知①②)</p> <p>○チェックリストを参考に、語の使い方や文のつながりに注意しながらより良い文章にする。(関②、能)</p>
<p>見通し3：文章としての一貫性に視点を当てて文章を自己チェックし、グループ内でチェックした文章を回覧し、他の生徒の文章の良さを参考に自分の文章をより良いものに再構成することで、情報を質的に豊かに発信できたか</p>			

VI 研究の結果と考察

1 発信に必要な表現を習得する段階において、センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを用いて、「文」を何度も繰り返し見て音読する活動を行うことは、発信する材料として英語を「文」単位で習得することにおいて有効であったか。

(1) 学習の様子と振り返りカードの内容から

協力校での授業実践2週間前から、センテンス・カードおよびサイトトランスレーション・シートを使って発信に必要な「文」を習得する活動を行った。センテンス・カードを用いた活動では、カードに書かれた30文すべての日本語訳が言えるまで英文の音読とその日本語訳を声に出すことを授業や家庭学習において繰り返し行った。サイトトランスレーション・シートを用いた活動では、授業の始めの8分間、帯学習として毎時間、英文を正確に音読したり日本語に訳したりし

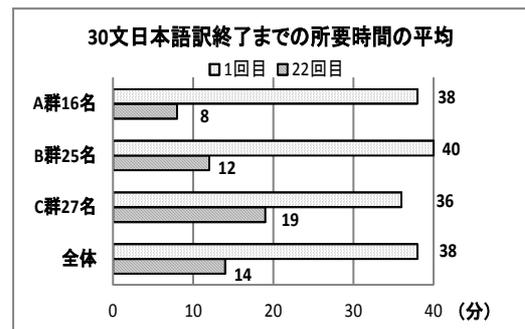


図3 センテンス・カードを用いた活動状況

ているかをペアで相互にチェックした。これらの活動は、センテンス・カードをできるだけ多く組み合わせる文章が作れるように、英語の「文」に十分に慣れ親しみ、英文の音読やその日本語訳が正確に行えることをねらいとした。

授業中の生徒の学習の様子を見ると、全員の生徒が英文を正確に音読し日本語に訳していた。このことから、十分に英語の「文」に慣れ親しみ習得できたと考える。また、センテンス・カードを用いた学習の振り返りカードで、30文の英語を日本語訳する所要時間を1回目と22回目（全22回実施）で比較するとA群～C群のすべてで所要時間が短くなった（前頁図3）。さらに、授業中のサイトトランスレーション・シートを用いた活動では、30文の英語を3分以内で日本語に訳す活動を行った。日本語にした英文の数を1回目と10回目（全10回実施）で比較すると、A群は18文から、B群は16文からともに29文へと向上した。またC群の生徒も、14文から26文に向上した（図4）。以上のことからセンテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを活用することで習熟の度合いが強まっていったことが分かる。

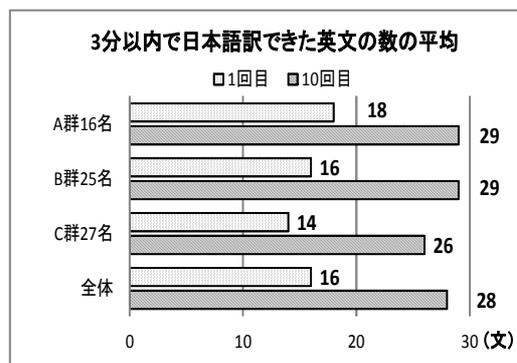


図4 サイトトランスレーション・シートを用いた活動状況

(2) 事後アンケートの内容から

事後アンケートでは70%の生徒が、センテンス・カードを用いた音読練習と日本語に訳すことが英語を「文」のまま習得することに役立ったと回答している（図5）。また57%の生徒が、サイトトランスレーション・シートを用いたペアワークが、英文を正確に覚えることに役立ったと回答している。

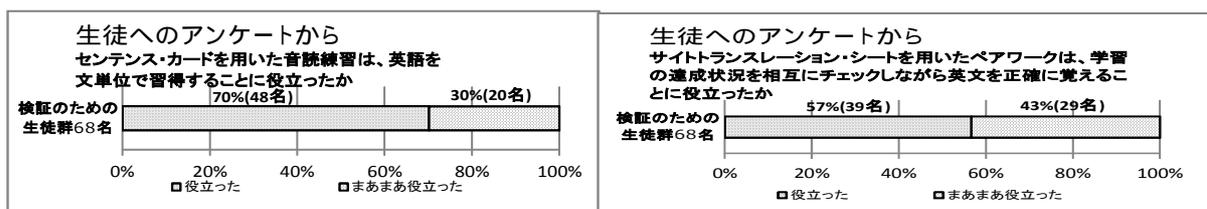


図5 カードやシートに関する事後アンケート

自由記述（図6）からは、カードやシートを使った音読が英文の習得に有効であると実感していることが分かる。また、カードを用いた活動が、学習意欲の持続、向上につながったととらえている生徒もいた。

学習の様子、振り返りカードの結果及びアンケートの回答から、センテンス・カードやサイトトランスレーション・シートを用いて英文の音読とその日本語訳を繰り返し行うことが、英語を「文」単位で習得することに効果的であったと言える。ただ、家庭学習では単語・英文の発音や読み方の確認が難しい。このような課題に対しては、単語の発音や英文の読み方を確認できるようなリスニング教材を作成することで、生徒の自学自習がさらにより良いものになると考える。

- <A群>
- ・カードを何度も音読しているうちに書きたい文が自然にイメージできるようになり、文章を書きたくなった。
 - ・単語ではなく、文のままで音読したので、単語一つ一つの意味や文法をあまり気にせず英文を覚えることができた。
 - ・家庭学習では、読み方が難しい単語や発音があやふやな単語を含む文はその場で確認できないので覚えづらく、すらすら音読したり日本語訳したりできるようになるまでに時間がかかった。
- <B群>
- ・カードを利用すると、できた量で達成感が味わえるのでやる気が持続した。
 - ・正しい発音で音読できているかどうか不安になることもあった。
- <C群>
- ・音読練習で覚えるとめんどくさいという気持ちもなくなり、繰り返しできた。
 - ・家庭学習しているときは正しく読めているかどうか確認する手段が無かったので、授業中の音読練習を通して覚えた。

図6 事後アンケートの自由記述より（抜粋）

2 量的に豊かな文章を書く段階において、自分が選んだテーマや与えられた場面に応じてセンテンス・カードを用いて「文」を自由に組み合わせて文章を構成する活動を行うことは、十分な情報量をもつ文章を作ることにおいて有効であったか。

(1) 学習の様子とワークシートの分析から

指導計画 2 時間目において扱った題材は、40 語程度の文章を構成することを目標としている（「情報を豊かに発信するための活動例」P 2 表 1 参照）。「将来就きたい仕事について」というテーマで文章を構成する活動を行った。具体的には、まずセンテンス・カードを用いて、文章作成シート「カケルくん」にある作成手順と留意点に従って「文」を自由に組み合わせて文章を構成した。文章作成シートに書かれた文章を見ると、86%の生徒が目標とする40語以上で文章を構成できた（図7）。

図8は事前調査と指導計画 2 時間目において、生徒が構成した文章の量を比較したものである。事前調査で 2 時間目と同様のテーマで文章構成した際は、生徒が書いた語数の平均は約13語だった。しかし、2 時間目の活動では平均して56語以上となり、事前調査と比較して 4 倍以上の語数で文章を構成できた。生徒は習得した「文」を十分に活用し、情報量の多い文章を構成できたことが分かる。

また、事前調査では生徒群により語数に大きな差があり、C群の生徒はA群の生徒と比較すると約6分の1の量（4語）しか書けなかった。しかし、2 時間目では各群ほぼ同程度の語数で文章を構成することができた。伝えたいことを発信する際、単語や語句を正しく組み合わせ文章として構成することが苦手な生徒も、センテンス・カードを自由に組み合わせる際、文章作成シートの作成手順により 2 文を 1 文にまとめたり代名詞を使ったりして文章を構成できた。したがって、センテンス・カードや文章作成シートを用いて文章を作る活動は、文章の量的な豊かさを実現できる手だてとして有効であったと言える。

(2) 事後アンケートの内容から

文章作成シートを使用した活動についての生徒の感想は以下のとおりである（図9）。

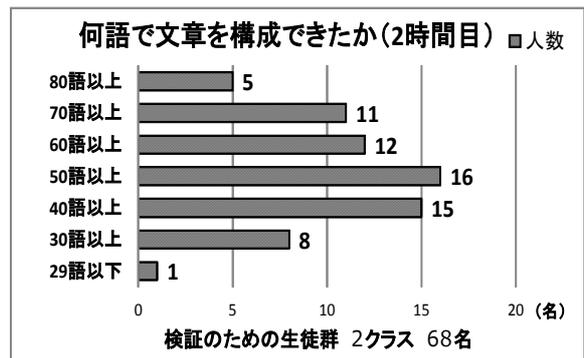


図7 生徒の構成した文章の量

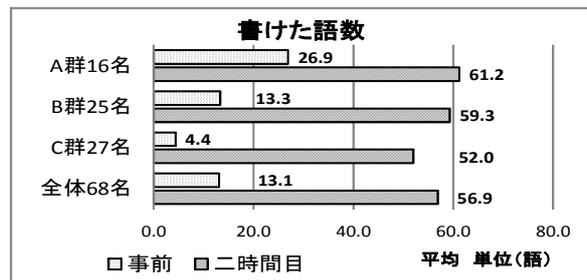


図8 事前と二時間目での量（語数）の比較

- < A群 >
- ・例文を応用して**自分の意思や気持ちを表現できる**ようになってとても役に立った。
- < B群 >
- ・カードで文を覚え、**カケルくんの手順を参考にしたら、すぐに文を書ける**ようになった。
- < C群 >
- ・最初は文章が全く書けなかったが、「**文**」を覚える活動後は**たくさん書けた**ので自分でもびっくりした。
 - ・**単語ではなく文**で覚えた方が文章を書くときに楽だった。
 - ・今まで英語で文章がうまく書けなかったけど、「**カケルくん**」を使っていたら、**文章を簡単に書ける**ようになった。
 - ・「マナブくん」は将来のことについての文がたくさんあったので「**カケルくん**」の手順を参考にして書きました。

図9 事後アンケートの自由記述（抜粋）

事前調査と比較して、量的に大きく増加した主な要因の一つは、事前の帯学習や家庭学習を通してテーマに即した30文の既習英文を何回も復習したことである。発信に必要な「文」に慣れ親しんでいたため、使いたいセンテンス・カードを容易に選ぶことができたと考えられる。もう一つは、発信で使う既習の英文を文章作成シートの作成手順に従い整理することで、センテンス・カードを自由に組み合わせ文章を構成することを容易にしたと考えられる。以上のことから、手だてにより文章が量的に豊かになることに有効であったと言える。

3 質的に豊かな文章を書く段階において、文章としての一貫性に視点を当てて文章を自己チェックし、グループ内でチェックした文章を回覧し、他の生徒の文章の良さを参考に自分の文章をより良いものに再構成する活動を行うことは、情報を質的に豊かにし発信することにおいて有効であったか。

(1) ワークシートの書き込みから

指導計画3時間目では、文章構成の一貫性に視点を当てて、作った文章をより良いものにする活動を行った。具体的には、「自分の気持ちや考えを表す文」を加え、接続詞などを使い文と文とがつながりをもった文章になるよう再構成させた。

実際の活動では、文章構造チェックシート「コウゾウくん」を使ってまず文章を自己チェックした。その後、4人で1グループを構成し、お互いに文章を回覧し、参考となる文をワークシートに書き出した。最後に、参考にした他の生徒の文を自分の文章に加えてワークシートに再構成した。

生徒が再構成した文章を見ると、図10の生徒は回覧を通して参考にした2文を自作の文章に組み入れた。全体の56%の生徒が、図10の生徒のように参考となる英文を語句を変えずにそのまま自分の文章に加えて文章を再構成した。図10の生徒については、更に「気持ちや考えを表す文」を3文加えることによって、前後の文に内容的なつながりをもたせている。全体的にはA群～C群のいずれの生徒も図10のような過程で文章を再構成できた。図11の生徒の再構成の過程には、更に工夫が見られる。例えば、回覧を通して参考にした文を、自分の文章の内容に合わせて主語や目的語(図11の斜体字の部分)を適切に変更し文章に付け加えている。また、文を加えるだけでなく、重複する内容の表現が1文削除されている。文脈を考えながら参考にした文を部分的に訂正したり、余分な文を削除したりしながら、文章を質的に豊かにしていたことが分かる。

以上のことから文章構造チェックシート「コウゾウくん」を使うことで、文章の質を高める共通の視点をもつことができ、グループ内で文章を回覧する際、参考にしたい「文」が見つかりやすくなったと考えられる。また、他の生徒の文章から、参考となる文を書き出すことで、自分の文章が再構成しやすくなり、文章の質を高めることに有効であったと言える。



図10 生徒が書いた文章1 (原文のまま)

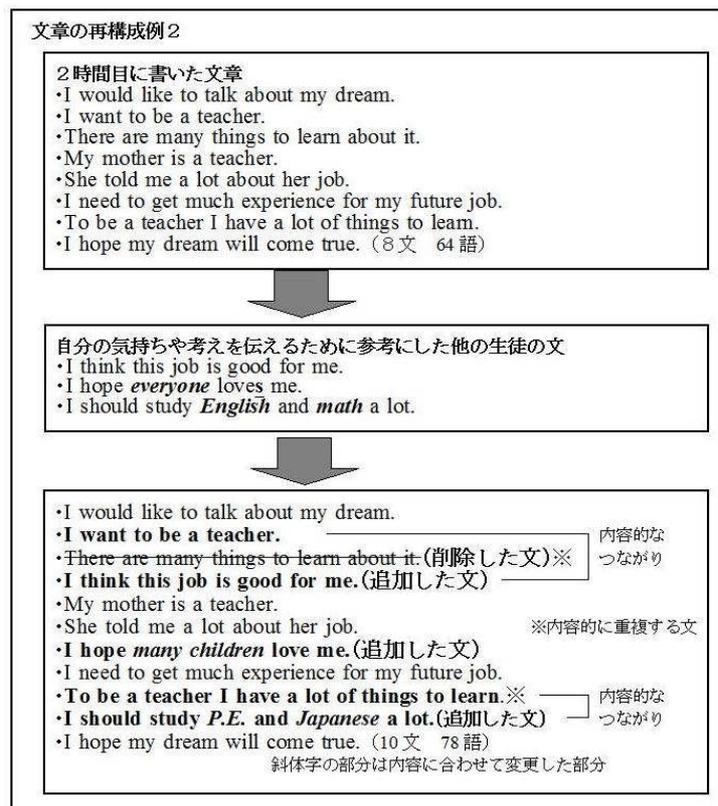


図11 生徒が書いた文章2 (原文のまま)

(2) 事後アンケートの内容から

事後のアンケートでは97%の生徒が、文章構造チェックシート「コウゾウくん」を用いた活動が自分の文章をより良くすることに「役立った」または、「まあまあ役立った」と回答している。

自由記述（図12）から、他の生徒の文章の良さを参考にしたことが文章の質的な向上に役立ったと実感していることが分かる。また、文脈を考慮し文の順序を入れ替える生徒もいた。以上のことから、グループ内で他の生徒の文章を回覧し、参考にした文を自分の文章に付け加えて文章を再構成する活動が、文章をより良いものにし、情報を質的に豊かに発信することに有効であったと言える。

- < A 群 >
・友だちの文章を見ると自分が使った文でもいろいろな場所に配置できるなと思った。再構成する時にもう一度配置を検討してみた。
- < B 群 >
・シートやカードで学んでいるときは、使い方のイメージが思い浮かばなかった文もあった。しかし、他の生徒の文章を見るとそのような文の使い方も分かったので、再構成するときにとっても参考になった。
- < C 群 >
・まず自分で書いてみてから友だちの文を見ると、参考にしたい文が見つけやすかった。その後、書き足すときも、どこに書き足すかがすぐに決められた。

図12 事後アンケートの自由記述（抜粋）

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- 生徒は英語を「文」のまま習得したことで、発信のために使いたい文がイメージしやすくなり、文章にまとめることが容易になったと実感し、実際に語数も増えたことから、「文」単位での習得が発信に有効であることが確認できた。
- 習得した「文」を活用して文章を構成し、さらに、少人数での学び合いを通して文章を再構成することで、約85%の生徒が自分の考えや気持ちを入れて40語以上の文章を構成することができ、文章を量的にも質的にも豊かにすることが十分に達成できた。
- 多くの生徒は、事前の「文」単位で習得する活動を含め、3時間の活動の有効性を実感し、発信力を向上させるためには同様の取組を今後も継続したいという感想を述べており、意欲の向上にもつながった。

2 課題

- 生徒が作った文章に、単語の綴りや文法事項の軽微なミスが見られた。書いて発信することにおいては、文法やスペルの正確さも文章の質を高める上で大切な要素である。より正確な英文を求めるなら、事後指導として、間違いを指摘した上で生徒に修正させることも必要である。
- 家庭学習として生徒がセンテンス・カードによる音読練習を一人で行う時も、正しい発音やイントネーションで音読練習することが望ましい。ALTによる音読を音声データとして作成するなど、生徒を音声面で支援することも必要である。
- 今回の、情報を豊かに発信するための活動は、3年間を通して計画的に実施することが発信力のさらなる向上につながる。そこで、「情報を豊かに発信するための活動例」を基に、発信力育成のための活動を年間計画に位置付け、各学年・各学期ごとに1回ずつ実施していきたい。

<参考文献>

- ・田尻 悟郎 著 『(英語) 授業革命論』 教育出版(2009)
- ・北原 延晃 著 『英語授業の「幹」をつくる本』上巻・下巻 ベネッセコーポレーション(2010)
- ・小松 達也 著 『英語で話すヒント』 岩波書店(2012)